

CIEC Newsletter

お知らせ

<2006PC カンファレンス> 自由な学びか、トレーニングか ～教育と IT～

開催日時：2006年8月3日(木)～8月5日(土)

開催場所：立命館大学衣笠キャンパス

全体会・講演会

講演題目：今日の学びを考える～徹底反復学習と ICT 機器～

日 時：2006年8月3日(木)10:00～12:00

開催場所：以学館1号ホール

講演者：陰山英男（立命館小学校副校長, 立命館大学）

最新情報は <http://www.ciec.or.jp/event/2006/>

CONTENTS

<CIEC 研究会報告>

- ・ CIEC 第 60 回研究会報告 2
- ・ CIEC 第 61 回研究会報告 3

<2006PC カンファレンス>

- ・ 2006PC カンファレンス開催速報 5

<CIEC 活動報告>

- ・ 第 3 回運営委員会報告 6

<CIEC からのお知らせ>

- ・ 2006 年度 CIEC 定例総会 7

CIEC 会員状況

(2006年6月30日)

<個人会員 821 名>

教員 604、大学職員 14、
院生 44、学生 4、
生協職員 81、企業 28、
研究者 8、その他 38

<団体会員 92 団体>

企業 29、生協 57、
大学 2、高校 1、
法人 3

CIEC ニュースレター

2006年6月30日

発行：CIEC（コンピュータ利用教育協議会）

編集：CIEC 運営委員会

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協会館

TEL 03-5307-1195 FAX 03-5307-1196

e-mail jim@ciec.or.jp URL <http://www.ciec.or.jp/>

CIEC研究会報告

<CIEC第60回研究会報告>

テーマ 外国語教育における e-Learning の最新動向
日時 2006年3月26日(土)13時30分~16時30分
会場 大学生協会館 201-203 会議室
司会 吉田晴世(大阪教育大学)
参加人数 32名(講演者を含む)

「オープンソースを活用した e-Learning 環境構築の動向概観」
上村 隆一(北九州市立大学国際環境工学部)

「外国語教育における Podcast の利用」
西嶋 愉一(金沢大学外国語教育研究センター)

「Moodle を利用したコンテンツ・ベースの授業実践と情報
コミュニケーション共有のあり方」
野澤 和典(立命館大学情報理工学部)

はじめに

学びの IT インフラとして定着した感のある e-Learning
は、今新たな転換期にさしかかっている。とりわけ、外国語
教育においては、商用の WBT に加えて、オープンソースに
よる学習履歴管理、教材作成、双方向通信の取り組みがにわ
かに活気づいてきた。今回の研究会では、まず、ブログとコ
ン텐츠自動更新サービスの組み合わせ、オンライン学習ポ
ータルサイトとストリーミングサービスの組み合わせなど、
各方面で行われている新たな試みについて概観し、その後、
大学における外国語教育の現場で実際に活用されている先生
方の具体的な事例報告をいただくことにした。

以下、当日の発表順に、各講演者自身がそれぞれの報告を
要約してまとめ上げた内容を示す。

「オープンソースを活用した e-Learning 環境構築の動向概観」
上村 隆一(北九州市立大学国際環境工学部)



最近1, 2年間の e-Learning の新たな展開として、次の3
点が挙げられる。

- (1) 商用プラットフォームからオープンソース LMS/CMS
利用への移行
(2) 教材コンテンツ制作の自由度拡大への動き
(3) 新たなオンライン学習環境の模索
まず、(1)については、商用プラットフォームである

WebCT, Blackboard などの多額なライセンス料問題や教材
コンテンツ制作環境の問題があって、Moodle というフリーウ
ェアの CMS が俄然注目されている。Moodle の特徴は、サー
バとクライアント PC の両方が Linux, Windows, Mac OS す
べての環境に対応し、使用者ライセンス数の制限が無く、し
かもオープンソースであるが故に、レイアウト、機能の追加
など仕様変更が自由に行える点である。

次に、(2)については、LMS/CMS の国際標準規格である
SCORM2004 において、学習コンテンツの相互運用性のみな
らず、教材の配列とレイアウト、学習順序の設定、ナビゲー
ション機能、コース管理者から学習者へのフィードバック情
報提供等の自由度が大幅に拡大した。これによって、学習コ
ース担当者は、LMS/CMS 固有の仕様上の制約に縛られるこ
となく、柔軟にコンテンツ作成・管理が行えるようになった。
ちなみに、Moodle の最新版では、SCORM2004 への対応が
なされている。

最後に、(3)については、デジタル音楽プレイヤーなどの
携帯端末を学習機器として位置づける、Podcast の急速な立
ち上がりは e-Learning の新たな可能性を開く突破口として、
教育者の関心を集めている。この「いつでもどこでもデジタ
ル教材で学習」の仕組みと具体的な外国語教育への応用につ
いては、この後の講演内容と重複するので、割愛させていた
だく。

さて、今後の e-Learning に関する課題としては、下記の3
点が考えられる。

- a. 学習環境の多様化への対応
b. 学びあいの動機付け
c. 教材作成ツールの充実と共有化

上記のうち、a.はすでにインターネット利用環境の主役が
PC から携帯端末に移行しつつある現状を踏まえ、オンライン
学習の「脱 PC」化を推進していく必要がある、ということだ
である。また、b.は従来の教師-学生・生徒の「縦の関係」を軸
にした e-Learning のシステムのみならず、学習者相互の教え
あい、学びあいという「横の関係」を具現化するシステムが
重要な意味を持つ。そして、c.は現在主にヨーロッパの EC
域内で試みられているように、ネットワーク環境の相互運用
性を高めながら、複数の教育機関で e-Learning 向け教材の作
成ツールおよびコンテンツの共有化プロジェクトを推進すべ
き時期が来ている、という意味である。このプロジェクトを
CIEC が主体となって取り組むとすれば、CIEC 版 Learning
GRID 実現の可能性も生まれるであろう。

「外国語教育における Podcast の利用」
西嶋 愉一(金沢大学外国語教育研究センター)



Podcast は、RSS を使用した音声・動画配信の形態である。
もともとは iPod でネットラジオを聴くための仕組みとして

作られたものであるが、配信するのも配信を受けるのも簡単なこと、最新のものを自動で取り込む仕組みがあること、音声はダウンロードして聴くので PC 以外のデバイスに持ち出すのが簡単なことなどから、急速に普及している。

これまで受信設備を持たなければ視聴できなかった海外の放送局(CNN、ABC、NPR、BBC 等)の音声あるいは動画の番組や、海外の大学が配信する講義などが Podcast で配信されており、外国語学習に有効なコンテンツとして活用することができる。

Podcast では音声(MP3/AAC)だけでなく、動画(MPEG-4/H.264)や文書(PDF)も配信することができる。外国語教育への活用としては、音声教材や授業に関する資料を配布する、といった用途が考えられる。テープをダビングする手間なしに、サーバに音声を置いておくだけで受講者に音声教材を配布できるので、音声を聞いて繰り返し学習する目的であれば、LL 教室などの設備に縛られることなく、場所を選ばずに学習することが可能になる。

Podcast を配信するには、Podcast に対応した blog サービス(seesaa ブログ、ココログ@nifty 等)を使うか、Podcast 対応の blog サーバ(Movable Type 等)を使うのが通常の方法であるが、いずれも blog のオプション的な機能なので、授業に使うためにはよりシンプルなもの望まれる。そこで、発表者が運用している Web サーバ上に、Podcast 配信専用のサーバを構築することにした。Podcast に特化して、音声・動画ファイル名と、説明文などの項目を入力するだけで配信できるよう作成したものである。

現在、このサーバは試験運用中であり、今後、さらに改良を加えつつ、授業での活用を行っていく予定である。

「Moodle を利用したコンテンツ・ベースの授業実践と情報コミュニケーション共有のあり方」
野澤和典(立命館大学情報理工学部)



Moodle (ムードル) は、オーストラリアの Curtin University of Technology で Web 管理者であり、WebCT のシステム管理者であった Martin Dougiamas 氏によって 1990 年代に開発されたもので、機能が豊富で、かつ無料のオープンソース教育管理コースウェアであり、Web サーバについて基礎的な知識と管理技能があれば、オンライン・コミュニティを簡単に構築できて教育活動に利用できるシステムで、近年世界中の外国語教育関係者を含む多くの CALL や e-learning の研究・実践者が利用してきている。演者は、以前から国際学会での報告を聞いていて Moodle に注目していたが、2004 年後半から同様のコースウェアである Xoops (ズープス) と比較・検討した後、自己管理のサーバ (Windows 2000 server と Mac OS X server) に最新バージョン(1.5.3)をインストールし、大学院レベルのコンテンツ・ベースの教

育活動を開始し、現在に至っている。その導入経緯を最初に説明し、さらに主として大学院科目 3 つのケースでの 2005 年度の実践報告をした。それらは立命館大学大学院「言語教育情報研究科」の 3 地点(京都、大阪、滋賀)を結ぶ遠隔教育システムを利用した 2 科目 (言語情報学 IV - <http://www.tell.is.ritsumeai.ac.jp/sleis4/> および異文化コミュニケーション II - <http://www.tell.is.ritsumeai.ac.jp/nvc/>)、さらには非常勤で教えている京都ノートルダム女子大学大学院「人間文化研究科応用英語専攻」の 1 科目 (英語プレゼンテーション特論 - <http://www.tell.is.ritsumeai.ac.jp/presen/>) における Moodle の構築サイト環境、具体的なコンテンツ構成、情報コミュニケーション活動と評価システム、アンケートの結果概要、遠隔教育上の問題点を含めた全体としての課題と解決策、過去一年間の利用実践を報告した。また、報告時間の制約もあり、教育活動内容については詳細に説明できなかったが、参加者の中には Moodle 実践者も数名いたので、簡単に実践内容を紹介してもらおうなど質疑応答が活発に行われ、有益な情報交換ができた。近い将来、日本語の文字化け等のバグが解決される最新バージョン(1.6)が公開されることで、より快適な利用が可能になり、さらに利用者が増えて行くものと思われる。

(文責 上村隆一)

< CIEC第61回研究会報告 > プレカンファレンス II

テーマ 「学び」の実践的な未来
—子どもや若者が参加し創造する新しい文化—
講師 目黒実先生
日時 6月11日(日) 10:00~13:00
会場 コープイン京都 201会議室
司会 福島 健介(日野市教育委員会)
参加人数 22名 (講演者を含む)

はじめに
講師の目黒先生は、九州大学 ユーザーサイエンス機構 特任教授で、篠山チルドレンミュージアム(兵庫県篠山市)の副館長でもいらっしゃいます。「ユーザーサイエンス」も「チルドレンミュージアム」も、言葉はわかるのに具体的イメージに乏しく、どのようなお仕事をされておいでるか、調べました。すると、次から次へといろいろな活動が表示され、それは広く深く、簡潔にまとめきれないくらいです。この日の目黒先生のお話もまた、先生の活動内容をベースに、実に多岐多彩にわたるトピックを、事例を交えて参加者を振り回して(失礼)下さり、息をつく暇もありませんでした。前半は、目黒先生が「チルドレンミュージアムと九州大学 USI 子どもプロジェクトについて」と題し講演、後半は参加者が、4~5 人のグループに分かれて、「絵本」をテーマに意見交換、そこからの話題で目黒先生がお話を加えてくださり、時間の経過を忘れる程の充実振りでした。

講演より
■九州大学 ユーザーサイエンス機構
<http://www.usi.kyushu-u.ac.jp/about/concept.html> により
ますと、「ユーザーの視点から技術と感性の融合を図り、『ユーザーサイエンス』を切り拓いていくための研究・教育拠点を確立し、実践的な研究開発システムと自立的基盤の創造を

目指す。」とあります。

機構はとても大きな組織で、部門が6つあり、そのなかの一つであるプロジェクト部門(スタッフ約200名)、のなかの一つである、「子どもプロジェクト」のリーダーを、目黒氏が務められています。

■子どもプロジェクト→チャイルドライフ専門職大学院

子どもたちは「究極のユーザー、真のオーディエンス」であり、この機構のプロジェクトの「技術と完成の融合した実践的な研究成果」を、子どもたちにとって「魅力的なコンテンツ・デザイン・居場所」として届けることを目的としています。つまり、子どもたちの優しい心を育てる場所は、子どもたちにとって快適な場所であり、それを研究して提供することを目的としています。現在8歳の子どもの10年経ったら大学を選ぶ年齢になるので、そのときに九州大学を選んでくれるような、そのような活動を目指し、実に多彩な活動が繰り広げられています。

たとえば 全国を巡回する"絵本カーニバル"、空間を絵本によって構成する試みは、会場が料亭だったり、また世界にたった一つしかない絵本展は、参加者が自分でストーリーを書き加えられたり、思いもつかない工夫や演出が見え隠れします。環境を考えるために、アーティストと共に研究を重ね発表の場である"ワールドプロセッサ展"を文化・科学施設へ無料貸し出し、山村・離島・病院の子どもたちへと出前授業のプロデュースも。"子ども病院支援活動"は九州大学医学部の小児病棟の新設時に空間のデザインや運営に関する協議に参加し、議論が繰り広げられました。このように、上げればきりがなほの幅広い活動で、しかも一つ一つが独創的なアイデアであふれ、どれもこれも、一言では語れない内容なのです。

そして、設立に向けて活動されている「チャイルドライフ専門職大学院」とは、子どもに関するいろいろな分野のプロフェッショナル養成の場です。仮に、子どもが手術することになった時に、不安感を与えずに病状や手術の説明をして回復に向けて前向きに納得させる人、加害者となった時の子ども専門の弁護士、親を亡くした時や被害者となった子どものケアをする人、教育・福祉機関はもとより、医療・情報・科学・娯楽・出版・文具製造・デザイン・マーケティングなど、あらゆる現場で子どものプロとして活躍する人を育成しようとするものです。また、それは、ボランティアではなく、ビジネスとして成立していなければならない、ビジネスとして成立すれば地域ともつながる、それがチルドレンズインダストリーなのです。近年、日本でも、医療保育士の制度が作られようとしています。

http://www.usi.kyushu-u.ac.jp/about/section02_2.html

■チルドレンズミュージアム

これまでに目黒先生が手がけられたチルドレンズミュージアムは、福島県霊山町、兵庫県篠山市、沖縄県沖縄市の3つです。本来アメリカで生まれたチルドレンズミュージアムを、日本に合う形で、立ち上げられました。「子どもたちのために」を合言葉に、リーダーの下に若いアーティストやサイエンティスト、教育学者やファシリテータ(伴走者)が集い、「遊び」と「学び」を往復運動するような構成の展示やワークショップを展開する子どもたちの居場所がチルドレンズミュージアムです。ここには、休日に家族で訪れる子どももいれば、1年の300日くらい通う子どももいます。スタッフは教育しようというのではなく、「もう1週間がんばろう!」と思ってくればそれでいい、というくらい、ゆっくりと子どもを見て

います。先生が副館長を勤められる、篠山チルドレンズミュージアムは、廃校となる中学校の校舎を再生した施設です。古いものを残しつつデザインしなおす、技術と感性で埋め込んで再生することは、現在の日本に大切なことの一つとして、過去をつぶさずその上に構築してゆくことだとおっしゃっていました。篠山チルドレンズミュージアムでは、このために養成されたプロのファシリテータが活躍しています。ファシリテータという存在もまた、教育の現場にいるものとして参考にすべき存在です。にぜひサイトをご覧ください。

<http://city.sasayama.hyogo.jp/>

意見交換

4~5人のグループに別れ、それぞれのテーブルに1冊ずつ絵本が用意され、自分たちの子どもの時代はどんな遊びをしていたか、絵本にまつわる思い出はあるか、などを世代の背景とともに語り合われました。その後、グループでの話題を代表者が発表する形で、参加者にシェアされ、昔と今の違い、地域社会の長所短所、子どもと自然とのかかわり、玩具や遊び場所の移り変わり、男の子の遊びと女の子の遊び、都会の子どもと田舎の子どもなど、回顧状態の意見が多く出ました。意見交換の中では、参加者は、教師や親の立場ではなく、子どもの立場で話していました。

子どもは地域によって育てられるということと、ファンタジーの世界はあの世とこの世を行き来することであり、絵本がそれを可能にさせる一つのツールであること、そして大人になっても少年のような心が必要なのではないかと、目黒先生は話されました。

質問

・学校が荒れている状態を、どのように解決すべきか?

回答: 教育の社会システムが悪いとしか言いようがない。そういってしまうとおしまいのようなのだが、しかし、現在のシステムのしわ寄せが子どもに来ている以上、そこを変えるしか方法はないと思う。中学生が小学生を、高校生が中学生を、大学生が高校生をケアするようなシステムを作り、人の役に立っていることを自覚し喜び、そして、自分の長所や才能に気づかせてあげることが大切である。システムでいえば、仕事に従事する期間が短すぎるので、本腰で取り組みきれていない。大きな仕事、システムや仕組みを創造したり、変えていくことは時間が掛かるものであるが、行政では、短い期間で転勤があり、いい仕事、いいシステム作りができないままなのではないだろうか?

・CEICへの要望は?

回答: ぜひ、子どもプロジェクトを作って欲しい。その中でICTの活用で子どもの防災・防犯のシステムを構築してはどうだろうか? また、ICTを絵本のように使いこなせているだろうか? ICTが想像力をわき出させるようなツールとして使っているだろうか? そのようなプロジェクトに取り組んでみては?

生協をうまく利用するというか、生協の働きで、もっといろいろなことがうまくいく。もっと、生協が参加・従事したら成功することがたくさんあるはず。

最後に

目黒先生は、非常に〇〇な方です。この、〇〇にはたくさんの言葉が入ります。例えば、「眼差しが魅惑的」など。着眼点が一般的ではなく発想が豊かで、それぞれが意外にもつながられ、独自の創意工夫でコーディネートされます。カテゴリズできない多くの経験から、瞬間の感動を信じ、出合いを

大切に、そして何より、他に喜ばれることを自分の喜びとされていच्छるような、なんとも不思議な視線を放つ深遠な目黒先生の、素敵な著書をご紹介します。ご一読いただければ、より、理解が深まると思われます。

「学校がチルドレンズ・ミュージアムに生まれ変わる地域と教育の再生の物語」

発行：(株)ブロンズ新社 ISBN4-89309-2319-1

(文責 辰島 裕美)

2006PCカンファレンス

< 速 報 >

自由な学びか、トレーニングか ～教育と IT～

開催概要

- ・開催日時 2006年8月3日(木)～8月5日(土)
- ・開催場所 立命館大学衣笠キャンパス
- ・開催テーマ 自由な学びか、トレーニングか ～教育と IT～
- ・主催団体 CIEC(コンピュータ利用教育協議会)
全国大学生生活協同組合連合会
2006PCカンファレンス実行委員会
- ・後援団体 立命館大学、文部科学省
京都府教育委員会、京都市教育委員会
財団法人大学コンソーシアム京都
KBS 京都、NHK 京都放送局、京都新聞
現代教育新聞社、日本教育新聞社
- ・実行委員会
名誉実行委員長 長田豊臣 立命館大学学長
実行委員長 佐藤 満 立命館大学
実行委員長代理 松田 憲 立命館大学
副実行委員長 佐伯 胖 CIEC 会長(青山学院大学)
- ・参加の範囲参加者数
参加者の範囲：大学の教職員、生協職員、大学生、大学院生、
小中高の教職員、その他教育研究機関の研究
者・社員、企業の研究者・社員、一般市民
予定参加者数：1000名
- ・参加費の範囲と金額
無料招待：講演会、シンポジウム、IT フェアなど
有料参加：分科会、ポスターセッション、
イブニングトーク、レセプション
参加費：学生・院生 1,500円(当日2,500円)
一般 5,000円(当日6,000円)
(CD版論文集付き)

全体会・講演会

講演題目：今日の学びを考える～徹底反復学習とICT機器～
日 時：2006年8月3日(木)10:00～12:00
開催場所：以学館1号ホール
講演者 陰山英男(立命館小学校副校長、立命館大学)

シンポジウム1

テ ー マ：自由な学びか、トレーニングか ～教育と IT～
日 時：2006年8月3日(木)13:00～15:30
開催場所：以学館1号ホール

パネリスト 板倉 隆夫(鹿児島大学)
大庭 まゆみ(ハミング発音スクール)
陰山 英男(立命館大学)
荻宿 俊文(大東文化大学)
筒井 洋一(京都精華大学)

シンポジウム2(生協職員部会企画)

テ ー マ：大学の中で広がる自発的な学びあい～変遷する「情報教育」進展する「教育の情報化」の中で～
日 時：2006年8月4日(木)15:15～18:15
開催場所：明学館96

シンポジウム3(小中高部会企画)

テ ー マ：情報教育で子どもたちは何を学んできたか・何を学ぶべきか
日 時：2006年8月4日(木)15:15～18:15
開催場所：敬学館地階210

- 第1部 アンケート結果の報告
平田 義隆(京都女子大学、京都女子高等学校)
武沢 護(早稲田大学高等学院)
- 第2部 パネリスト報告
阪山 仁(神戸高等学校)
川崎 初治(飛翔館高等学校)
太田 容次(独立行政法人国立特殊教育総合研究所)

シンポジウム4(カンファレンス委員会企画)

テ ー マ：大学に求められる新しい一般情報教育
日 時：2006年8月4日(木)15:15～18:15
開催場所：敬学館1階230

- 第1部 高等学校普通教科「情報」の履修状況調査報告
橋 孝博(早稲田大学高等学院)
- 第2部 大学の一般情報教育についての講演
田中 克巳(京都大学)
田中 規久雄(大阪大学)
西田 知博(大阪学院大学)
- 第3部 パネル討論
指定発言者 中條 道雄(関西学院大学)
辰己 丈夫(東京農工大学)

ワークショップ

- ・「Moodle Workshop」対象(初級者、初中級者)
日 時：8月3日(木)15:50～18:15
開催場所：尽心館 情報処理演習室1(001教室) 80名定員
- ・「Flash 8 Workshop」対象(初級者、初中級者)
日 時：8月3日(木)15:50～18:15
開催場所：尽心館 情報処理演習室1(002教室) 50名定員

IT フェア

開催日時：8月4日(金)10:00～18:00
8月5日(土)10:00～13:30
開催場所：諒友館 食堂(地下)
50社余りのコンピュータ関連企業が出展！
最新の情報が得られ、教育・研究素材を収集できます。

イブニングトーク

実施日時：8月3日(木)18:15～20:00
開催場所：以学館食堂・諒友館食堂

ポストカンファレンス

実施日時：8月5日(土)13:30～15:30

開催場所：国際平和ミュージアム2階会議室 K209

分科会

論文発表

- ・ポスターセッション 50本
- ・口頭発表 87本

最新の情報は

<http://www.ciec.or.jp/event/2006/>

CIEC活動報告

<2006年度第3回運営委員会報告>

日時：2006年5月28日(日)10:00～13:30

場所：大学生協会館(杉並)5階ダイニング

出席：赤間道夫(愛媛大)、綾皓二郎(石巻専修大)

生田茂(筑波大)、板倉隆夫(鹿児島大)

小林昭三(新潟大)、武沢護(早稲田大学高等学院)

森夏節(酪農学園大)、矢部正之(信州大)

和田寿昭(全国大学生協連)

今國喜栄(監事、全国大学生協連)

高橋雅治(事務局)、羽田咲子(事務局)

欠席：一色健司(高知女子大)、上村隆一(北九州市立大)

佐伯胖(青山学院大)、立田ルミ(獨協大)

松田憲(立命館大)、山口久幸(芝浦工業大生協)

湯浅良雄(愛媛大)、若林靖永(京都大)

- 議題：1. 2006年度CIEC定例総会議案の検討
 2. 2006年度定例総会準備に関する件
 3. 2006年度学会賞実施計画の経過と今後の進め方
 4. 06高等学校教科「情報」の履修等状況調査の中間報告
 5. 創立10周年記念事業委員会報告
 6. 2006PCカンファレンス開催準備の進捗状況

1. 2006年度CIEC定例総会議案の検討

2006年度CIEC定例総会議案について協議した。その後、2006年度の役員体制と今後の学会運営の方向性について協議した。

(1)議案1：2005年度事業報告と2006年度事業計画承認の件
議案の加筆や修正について、次のように確認した。

- ・議案1の2006年度事業計画にあたる部分に加筆を行う。
- ・資料1のカンファレンス委員会報告は、総会(会員)への報告という文書の位置づけを意識して一部を修正する。
- ・資料1の国際活動ワーキング報告は、報告と次年度の計画という形で内容を整理する。
- ・資料2の生協職員部会報告は、実施した企画の成果や今後の課題を加筆して明記する。

(2)議案2：2005年度決算報告承認の件

監事会からの監査所見を受けて意見交換し、次の点を確認した。

- ・WebアンケートとVOAプロジェクトの現在の到達点に関する理事会への報告が、何らかの形で行われるように今後追求する。
- ・生協職員部会における部会活動援助金の使途に関する所見

は、運営委員会としても、学術団体としてのけじめに言及した指摘として受け止める。その上で、今後の運用については生協職員部会での協議を待ちたい。

(3)議案3：2005年度収支差額処分承認の件

議案での提案通り確認した。

(4)議案4：2006年度予算承認の件

1)予算計画全体を検討する中で、次のような発言があった。

・会誌編集に当たっては、この間、作成計画の厳格な運用をはかってきた。その実績に基づく06年度の会誌作成予算だと理解している。今後も作成計画に沿って執行する。

・新たなCIECウェアの開発を今後どう具体化していくかが重要だ。そのこととの関係でも、教室活性化ツールの開発に対する配慮を求めたい。

・個人会員の新規加入が最近特に悪化しているかと懸念したが、そうではないことは理解した。が、拡大のための具体的な計画をもつことは引き続き重要である。

2)CIEC TypingClubの供給による収入の取り扱いを次のように確認した。

・当面、事業収入と見られる収入がそのまま計上され、それによって収支の規模が増大する方向はとらないことを方針とする。

・パーシティブューブが著作権者、開発者にライセンス料を支払い、また、CIECには覚書に基づいた計算方法で団体会費を支払う。このように関係を整理したうえで、収支予算にそれを反映させる。

3)行動費およびPCカンファレンス開催中に行われる理事会参加者への交通費支給の見直しについて、次のように確認した。

・行動費の支給を廃止する。
 ・旅費が保障される役員にはCIECとして交通費を支給しない。

・以上の2点を理事会メーリングリストに提案し、承認され次第執行する。

(5)議案5：役員選挙の件

選挙管理委員の選出に関する理事会提案、選挙のスケジュール、公示の内容について運営委員会として確認した。また、選挙規約上の文言「有効投票数」は「有効得票数」と解釈し、今後、規約上の改定も行う方針を確認した。

(6)2006年度の役員体制と活動方針について

1)次期三役体制の確立に向けた準備の状況について報告を受けた後、協議に移り、次のような発言があった。

・役員を選出にあたって、CIECはこれまで立候補制をとってきた。しかし、実際には推薦に近い形で立候補が促されてきた経過もある。立候補制と役員の新陳代謝は両立しづらい面があると考えており、この点を充分議論する必要がある。

・専門委員会の委員構成に新陳代謝が必要なことには賛同する。が、交代のルールを何ももたない現状で、委員会だけでそれを議論し判断することは困難である。

・委員会の中では実務担当者とアドバイザーの役割分担を鮮明にすべきだ。また、各委員会についても、それがアイデアを出す委員会なのか、実務的な委員会なのか、はっきりさせる方向で役割を見直すべきだろう。

・CIECが教育にアプローチする方向性を堅持することは大切だ。そして同時に、知の共同組織としての価値を重視せねばならない。例えば、商品を生産しながらその商品について考えていくことのできる点がCIECの特色だ。

・大学生協連とCIECが一緒になってCIEC Wareを作る関係をもっと発展させたい。大学生協の側が求めるものを議論のテーブルに乗せて話し合う場をより充実させる必要がある。

また、こうした話し合いの場の必要性は生協職員部会との関係でも同様である。

・CIEC と大学生協をしっかりパイプする教職員のメンバーが必要だ。こうしたメンバーを中心に、次の PC カンファレンス開催地を決定することをこれまででも重視してきた。

・CIEC にとって大学生協連は大口の団体会員だが、共同の取り組みを形成するアプローチがまだ不足している。CIEC の会員に大学生協のことを良く知ってもらふ意味でもこの働きかけが大切だ。

・団体会員とのコラボレートを視野に入れ、ここから各種の実践を生み出そうとしている点が CIEC の大きな特徴だ。専門委員会の強化、再編も、この特徴を更に発展させる視点から検討されるべきであろう。

2)以上の意見交換をふまえ、司会の矢部副会長が最後に次のようにまとめた。

・役員選挙が公示されるが、選挙後の新しい役員体制のもとで、専門委員会や部会が今後どうあるべきかを考えねばならない。次期理事会を中心に検討を進め、10月頃を目標に、専門委員会と部会の新しい体制を確立する。検討の過程で専門委員会や部会の性格と役割を再度明らかにし、今後の10年に向けた新たな規約を整備することとしたい。

2. 2006年度定例総会準備に関する件
定例総会議案と運営方法について、提案通り確認した。

3. 2006年度学会賞実施計画の経過と今後の進め方
6月末の審査、7月上旬の学会賞決定に向け、選考委員会が責任を持って諸任務に当たることを再確認した。

4. 06 高等学校教科「情報」の履修等状況調査の中間報告
武沢委員が調査結果の概要を報告した後、次の事柄を確認した。

・経年調査が必要であるとの認識で一致したので、そのように今後方針をもつ。

・調査実施校や生協から様々な形でデータの提供を求められた時に対応できるよう、集まった全データを集計する。アルバイトによる作業も考慮に入れてこのことに取り組む

5. 創立10周年記念事業委員会報告
記念事業委員会で研究会と講演会の開催を検討していることを、同委員会委員長の矢部副会長が報告した。

6. 2006PCカンファレンス開催準備の進捗状況
2006PCカンファレンス準備の進捗状況を事務局から報告した。

次に森委員から、PCカンファレンス北海道準備会の開催報告があり、それを受けて以下のような発言があった。

・CIEC 本体としての関わり方については、北海道の希望もふまえ、カンファレンス委員会を中心に検討したい。

・現地の実行委員の先生方と大学生協（の専務）との協力が不可欠だが、この関係作りに CIEC としてどんな形で援助ができるか、考えていく必要がある。

以上

CIECからのお知らせ

<2006年度CIEC定例総会>

日 時：8月4日(金)12:05～13:20

場 所：立命館衣笠キャンパス

【2006年度CIEC定例総会 議案】

議案1. 2005年度事業報告と2006年度事業計画承認の件

議案2. 2005年度決算報告承認の件

議案3. 2005年度収支差額処分承認の件

議案4. 2006年度予算承認の件

議案5. 役員選挙規約の一部改定承認の件

議案6. 役員選挙の件